

3級左官技能検定の取り組み

岐阜県立国際たくみアカデミー
職業能力開発校 住宅科 左官エクステリアコース

石田 敏郎

1. はじめに

平成19年度前期技能検定から新たに3級左官（左官作業）が加わった。平成20年度、岐阜県立国際たくみアカデミー職業能力開発校 住宅科左官エクステリアコースの生徒が、この検定に挑んだ。鏝すら握ったことのない生徒たちが、入校して約3ヵ月から4ヵ月後には、それぞれ実技試験、学科試験を受検しなければならない。この間の検定受検に向けての取り組みを報告する。



図1 岐阜県立国際たくみアカデミー
職業能力開発校 本館校舎

2. 本校左官エクステリアコースの概要

県立国際たくみアカデミーは、日本の真中の「へそ」に当たる岐阜県にあり、その中でも木曾川のほとり、旧中山道の宿場町太田宿として栄えた美濃加茂市に位置する。当アカデミーは、職業能力開発短期大学校と職業能力開発校（図1）より構成され、当コースは短期課程として職業能力開発校住宅科に設置されている。当コースは、昭和35年のブロック建築科を発端に、校の位置、科の見直し等を経て県内唯一の左官エクステリア技能者の養成校として現在に至っている。

当コースのカリキュラムは、主に①左官 ②ブロック ③レンガ積み、タイル施工、造園等のエクステリア施工ならびにクロス貼り等より構成される。従来まで当コースで取得する資格は、玉掛け技能講習およびガス溶接技能講習のみであったが、昨

年度から3級技能検定に左官種目が加わったことにより、業界の協力を得て、技能向上を目的として検定に挑戦している。

3. 実技試験の取り組み

春爛漫、桜が咲き誇る4月、10名の新入生を迎えた。平成20年度の入校生は、新規中卒・高卒5名、離転職者（20～60歳台）5名の計10名である。

入校と同時に、技能検定受検に対する試行錯誤の訓練が始まった。鏝を握ったことのない生徒をいかにして短期間で技能検定3級レベルまで到達させるかが大きな課題である。そのために、今年度の技能検定日程を考慮するとともに、昨年度の経験に基づき、表1に示す実技試験までの訓練概要フローを作成し、実技試験までの3ヵ月間の訓練を実施した。

表1 入校式から技能検定実技試験までの訓練概略フロー

	4 月	5 月	6 月
技能検定申込み	■		
入校式	■		
鍍返しの練習	■		
統一講習会	■		
土中塗りの練習	■		
模擬練習台での練習	■		
タイムトライアル			■
技能検定実技試験			■

入校の決まった生徒には、入校説明会で技能検定受検を伝え、入校式前に検定申込みを行った。入校式1週間後には、岐阜県左官業組合連合会主催による技能検定受検者を対象とした統一講習会に参加をするため、少しでも鍍に慣れるように、下記に示す訓練を実施した。

4. 鍍に慣れる

4.1 鍍返しの練習

生徒が少しでも鍍の使い方に慣れ、左官の基礎を身につけることを目的とし、鍍板に乗せた少量のネタを鍍で取る（鍍さばき）練習を毎日繰り返し行った（図2）。ネタを鍍板から落とさないように、慎重かつすばやく鍍の裏にネタを乗せる練習である。



図2 鍍さばきの練習風景

鍍の持ち方、鍍板を傾けるタイミング等、両手に神経を集中させての練習である。鍍さばきは、時間とともに上達がみられた。

4.2 土中塗りの練習

鍍返しの練習により鍍の使い方に慣れてきたところで、土中塗りの練習を行った。この訓練は、左官科を有する職業訓練校では一般的に行われているが、幅900mm×高さ1800mmの模擬壁に泥土を塗る訓練を行うものである。鍍の握り方・鍍さばき・場の作り方等の基本的な作業を体で覚えるために、重点的に繰り返し実施した（図3）。これと同時に、土中塗りの訓練は、後に述べる実技課題の練習とともに、実技試験直前まで並行して実施した。



図3 土中塗り練習風景

5. 統一技能講習会への参加

生徒は岐阜県左官業組合連合会主催による技能検定受検者のための統一技能講習会に参加した(図4)。この講習会はすべての級の左官技能検定実技試験対策として毎年実施されており、組合員の方々による直接の指導が得られる。

講習会は、入校後1週間後に実施されたため、生徒は十分に鑊に慣れることや、試験課題を見る機会もなく講習会に臨んだ。このような状況で、受検生はそれぞれの試験台に向かい、ほかの受験生に交じり実技課題作成の手順および急所等の指導をしていた(図4)。参加者の多数は、現場で現役として活躍されている左官職人であり、彼らの技を直接目にする機会や、また彼らとの交流もあり、大変勉強になったことであろう。

同時に、指導する側として、講習会を受講するまでは、課題の作成手順が生徒それぞれで異なっていたことや、急所となる平滑度の出し方や直角面の塗り方等、不明な部分が多々あったが、受講によりこれらが解消されたことで、今後の練習方法に道筋をつけることとなる大変有意義な講習会であった。

6. 模擬練習台での訓練

講習会受講後、左官技能検定パンフレットの試験台形状(図5)をもとに、模擬課題試験台(図6)を製作し、これを使用して生徒に反復練習させるという方針で、実技課題の指導方法がより明確になった。

実技練習では、セメントモルタルの代用として石灰モルタルを使用した。これは、セメントモルタルと同等な感覚で塗り作業ができることや、セメントモルタルと異なり使用後も再利用ができること、練習台を傷めない等の利点がある。模擬練習台を用いた訓練は、週2~3回、試験課題に慣れるための初期と試験間近の2つの段階に分けた。実技試験では「仕上がりの美しさ」や「寸法の正確さ」、「材料の調整」から「こて」の操作方法」まで採点される。



図4 統一講習会での当校生徒の練習風景

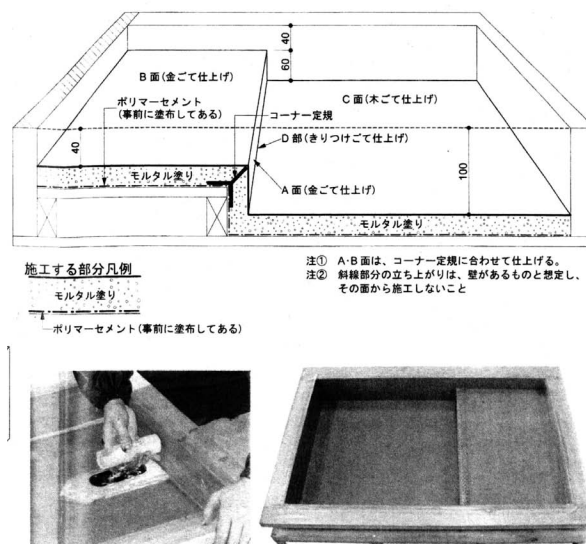


図5 試験課題挿入図
(「3級左官(左官作業)のご案内」より)



図6 作製した3級左官技能検定の練習台

表2 タイムトライアル結果

訓練生	タイムトライアル (h:時間, m:分)										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
A	48m	52m	56m	58m	59m	50m	54m	52m	54m	51m	53m
B	52m	52m	55m	58m	58m	57m	55m	57m	56m	55m	55m
C	51m	52m	欠席	55m	58m	57m	55m	欠席	53m	52m	52m
D	50m	52m	57m	55m	58m	56m	56m	53m	56m	57m	58m
E	計測不能	60m	計測不能	70m	計測不能	43m	58m	57m	1h2m	1h25m	58m
F	45m	45m	60m	60m	60m	57m	58m	55m	59m	59m	59m
G	欠席	50m	56m	58m	59m	欠席	55m	48m	56m	55m	54m
H	55m	53m	56m	55m	58m	57m	54m	50m	55m	57m	56m
I	55m	57m	57m	56m	55m	56m	56m	47m	58m	58m	57m
J	43m	40m	40m	45m	42m	50m	45m	41m	51m	49m	50m

そこで、練習の初期段階は、規定時間の1時間を考慮せず、作業手順、精度、仕上がりに重点を置いて訓練を行った。統一技能講習会で学んだ手順・急所等に注意し、確実な課題作成を心がけた。

実技試験間近の段階では、本番を想定して規定時間内に精度よく仕上げることを目標とした。タイムトライアルによる課題作成時間の結果を表2に示す。ほとんどの生徒が、規定時間内に課題を完成させるなか、1名の生徒が規定時間を大きくオーバーした。そのため、該当する生徒の課題作成時の問題点を見つけ出したところ、以下に示す各工程で大きな時間ロスが認められた。このことから、試験課題を下記の4つの工程に分けるとともに、それぞれの工程に制限時間を設け、課題作成にあたった。

- 第1工程 寸法墨出し 5分
- 第2工程 立ち上がり・上面仕上げ 20分
- 第3工程 下面仕上げ 25分
- 第4工程 チリ掃除・チリ押さえ・確認・掃除 10分

各工程に設けた目標時間をクリアすることにより、規定時間内に課題が終われるよう繰り返し練習を実施した。その結果、該当する生徒の課題作成時間は、徐々に短縮がみられた。3ヵ月間に及ぶ基礎訓練ならびに反復練習による成果として、すべての生徒が、規定時間内に精度よく仕上げができるようになった。



図7 練習台を使用しての実技訓練



図8 技能検定実技試験に臨む

7. 実技試験

試験当日、生徒たちは会場の雰囲気にもまれることなく、約3ヵ月間に及ぶ練習の成果を十分に発揮し、10名全員が規定時間内に課題を完成させることができた(図8)。

8. 学科試験の取り組み

学科試験は実技試験終了後、約1ヵ月後に実施される。実技試験同様、学科試験全員の合格を目指し、毎朝の小テストを実施した。小テストは、「雇用問題研究会編 技能検定学科試験問題 左官1・2級」および「職業能力開発総合大学校職業能力開発センター編の教科書」をサブテキストとして、主要な部分を取り上げ、確認テストを行った。また、学科試験間近では、「技能検定学科試験問題」や「過去問題」により選別・作成した模擬試験を何度も行い、生徒の理解度を測った。小テストに加え、岐阜県左官業連合会主催による2日間にわたる学科講習会にも生徒を参加させた。これら学科試験の取り組みを通して、生徒は試験の傾向をつかみ、かつ、理解度をさらに深めていったと確信している。そして、平成20年7月29日(日)、生徒はそれぞれの受検会場で、学科試験に挑んだ。

9. おわりに

学科試験終了後、約1ヵ月で中央職業能力開発協会より学科試験の正解がホームページに掲載される。これをもとに自己採点を行い、学科試験の結果を推測した。

平成20年8月28日、技能検定3級合格発表当日、岐阜県職業能力開発協会ホームページにより、合格者受検番号を確認した。その結果、受検者10名中、9名の3級左官技能士が誕生した(残念ながら不合格となった1名は、学科試験が基準点を満たさなかったためであり、実技試験は全員が合格した)。

今回の技能検定受検を通して、生徒たちは、職業に対する厳しき・ものづくりの楽しさ・完成させたときの達成感等を実感できたのではないかと思う。同時に、生徒にとって今後の大きな自信となり、これを機会に自身の腕を更に磨き、上の級へ挑戦していくための布石となることを期待する。

最後に、今年度受検した生徒の感想を記す。

- ・初めは不安であったが、毎日の練習で技能を身につけることができた。
- ・毎日の練習の積み重ねが大切であることがわかった。
- ・日々の訓練に加えて、イメージトレーニングを実践したことにより、当日時間内に終えることができた。
- ・将来は、2級技能検定に挑戦したい。

なお、当左官エクステリアコースは、平成20年度をもって廃科となり、左官技能検定受検は本年度受検生が最後となった。この検定受検に当たりお世話になりました関係各位に記して謝意を表します。

<参考文献>

- 1) 中央職業能力開発協会：『能力開発21』2007.11, pp14-15
- 2) 中央職業能力開発協会：「第16回職業能力開発研究発表講演会予稿集」pp139-140, 3級左官(左官作業)のご案内